

# 少子高齢化社会における 世代間交流方策に関する研究

1090413 井上 亜璃紗

指導教員：草柳俊二教授

高知工科大学 工学部 社会システム工学科 建設マネジメント研究

世界には約69億人もの人々が生活しているが、2050年には約91億人になると推測されている。しかし、日本の人口は2010年以降、出生率の低下が原因で、急激な減少に転じる。さらに人口が低下するにも関わらず、高齢者の人口の割合は増加してくると推測される。これは益々、少子高齢化の影響が強くなると考えられる。本研究は、少子高齢化社会における世代間交流の必要性・重要性をテーマとしたものである。

**Key Words : Exchange between generations, Less children and aging society, Exchange place**

## 1. 背景

### (1) 高齢化社会

現在世界には、約69億人もの人々が生活している。人口は、このまま増加し続けると考えられており、2050年には約91億人になると推測されている。その主な理由として、中国とインドの異常たる人口増加である。中国は2004年から5年間で約3210万人増加、インドは5年間で約1億人の増加である。2009年の調査では、中国の人口は約13億人、インドの人口は約11億人である。これは中国人が全人口の約20%、インド人が全人口の17%を占めていることになる。しかし、世界人口を年齢別で見ると、2050年には15歳未満の人口が減少し、65歳以上の人口が増加してくる。これは世界的にも少子高齢化の問題が深刻化してくると考えられる。

そして我が国も、少子高齢化の問題が叫ばれているのが現状である。日本の人口は、約1億2000万人であり、内65歳以上の方【高齢者】が約2941万人である。これは、全人口の約23%を高齢者の方が占めている結果になる。2050年には更に悪化すると推測されており、日本の高齢者の割合は39.5%に跳ね上がると推測される。これは、日本の人口の4割が高齢者の方になり、2.5人に一人が高齢者になってしまう。さらに、日本は2010年以降、人口成長率がマイナスになると推測されており、人口が減少すると仮説立てられている。

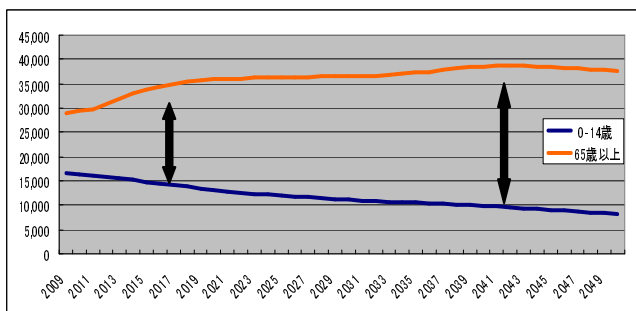


図-1 予測：日本の人口・年齢構成別  
(赤 - 老年人口 青 - 年少人口)

しかし、年少人口(0~14歳)は減少するも、老年人口(65歳以上)は増え続けると推測されている。今後、少子高齢化の問題は益々深刻化すると考えられる。

### (2) 高知県の高齢化の現状

2009年12月31日調べでの高知県の人口は、約77万人である。77万人という数は都道府県別人口ランキングでもワースト1位の島根県に続き2位に位置づけられている。さらに、高知県は老年人口(65歳以上)割合が、島根県・秋田県に続き3位に位置づけられている。人口が少ないにも関わらず、老年人口が多いという事は、高齢化社会の影響が強い県と断定できる。老年人口割合に至っては、全国平均が22.4%なのに対し、高知県は26.6%と大幅に上回っている。

そして、近年では女性の長寿が目立ってきており、高知県でも元気な高齢者の女性をよく見かける、高知県の女性は全国年齢別人口でも平均値を大幅に上回っている。

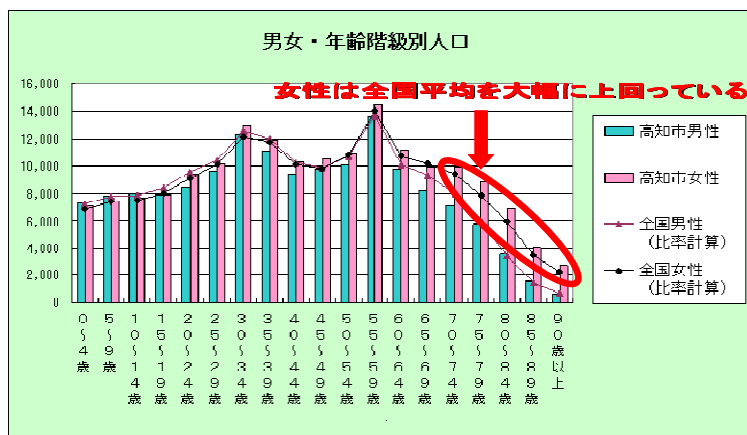


図-2 全国 男女・年齢別人口(高知県比較)

## 2. 目的

高知県は高齢者が多い県と定義づけられたが、各世代

が他の世代と交流する事は、地域や人々の活性化にも繋がり、また各世代にしか持っていない素晴らしいもの(知識・精神的支援・肉体的支援・心理的支援等)を分け与える事で、各世代間で様々な効果が得られると考える。何より他の世代と交流する事は、勉強や経験にもなり、そこから学べる事がいくつも存在すると考える。本研究は各世代が他の世代と交流できる場を提供することを目標に行った。

### 3. アンケート調査(意思・意欲確認)

#### (1)各世代との交流の有無・意欲・交流に何を望むか

○4世代に分けて各世代25名づつ調査する

- ・子供(小学生・中学生・高校生)
- ・若者(大学生・20~30代独身者)
- ・若年夫婦(20~30代の夫婦)
- ・高齢者(65歳以上)

○無作為抽出により調査(施設訪問、街頭アンケート)

○2010年1月23日(街頭アンケート)

○回答率100%

#### (2)結果

問1) 他の世代の方々と接する機会がありますか?

問2) 他の世代の方々と交流に興味がありますか?

全世代とも他の世代と交流する機会が「全くない」「少ししかない」という意見が半数を占めていた。しかし、交流したいという意欲は半数以上の方が「大変興味ある」「興味ある」「どちらかと言えば興味ある」と答えてくれた。しかし、「なかなか機会がない」「時間がなくて」等の意見を話してくれた。若年夫婦の「全くない」「少ししかない」の%が低いのは、高齢者と今、現在住んでいる・自分に子供がいるという理由で低いことが分かった。

機会があれば他の世代の方と、「接したい」「交流したい」という意欲が存在することがこの結果から読み取れた。

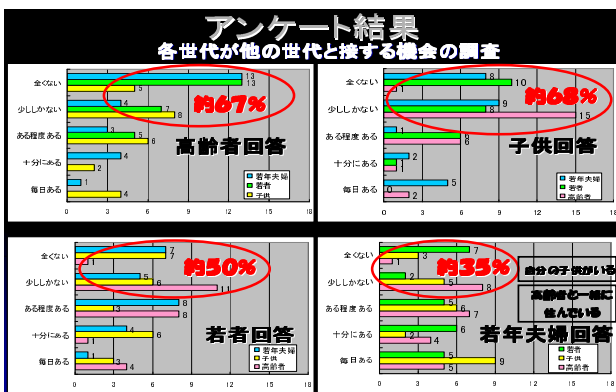


図-3 他の世代と接する機会調査

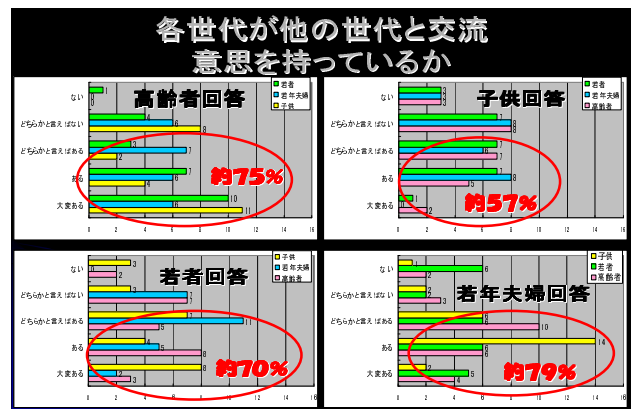


図-4 他の世代と交流の意思調査

また、高齢者(要介護者)施設に直接、訪問をして、ヒアリングアンケート調査を行い、世間話や会話を交えて調査した。会話の中で「側にいれたらそれだけでいい」という意見を始め、交流したい気持ちがあっても、「孫も成長したから相手にしてもらえない」「期待をしてはいけない」「子供の時は面倒みただけ、見返りを求めたらいけない」と悲しい意見が幾つもあげられた。それでも、子供が好きだから交流したいと話してくれた。

問3) 他の世代の方と交流する際に何をしたいですか?

次に各世代が他の世代と交流する際にどのような事をしたいか集計した。やはり、「談話」という意見が圧倒的に多く、次に料理やスポーツが挙げられた。特に子供と若者の間では双方共にスポーツを通して交流したいという意見が多数あり、各世代とも交流したい項目は一致していた。しかし、高齢者・若者の間では交流の項目が不意一致だった。これは高齢者と若者の考え方の違いや関わりが少ない事から生じる問題だと考えられる。

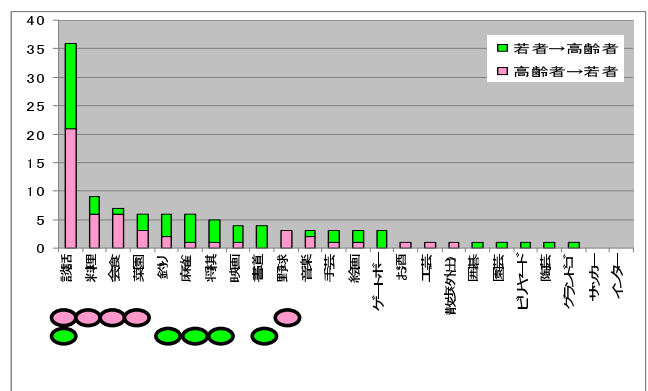


図-5 高齢者と若者が交流する際にしたい事

問4) 他の世代の方と交流する際に何を望みますか?

そして、他の世代との交流で何を望むかを集計した。高齢者の回答では、全世代に対して活力や元気をもらいたいという意見が最も多く、若年夫婦に対しては、意見

交換を望んでいた。また、子供の回答では、全世代に対して考え方や知識を教えてほしいという意見が最も多く、若者に対しては、遊びたいという意見が得られた。

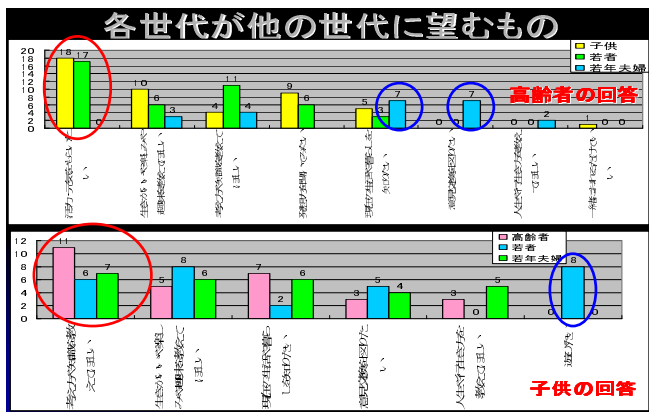


図-6 高齢者と子供が他の世代に望むもの

若者の回答では、全世代に対して考え方や知識を教えてほしいという意見が最も多く、子供に対しては、活力や元気をもらいたいという意見が挙げられた。最後に、若年夫婦の回答では、全世代に対して考え方や知識を教えてほしいという意見が最も多く、若者に対しては意見交換を、子供に対しては、活力や元気をもらいたいと望んでいた。

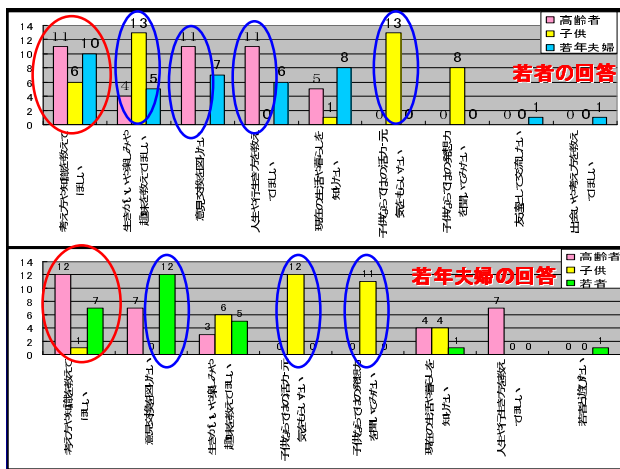


図-7 若者と若年夫婦が他の世代に望むもの

問5) 各世代の方々と交流するスペースがあれば行きたいと思いませんか？

各世代の方々と交流できるスペースがあれば行ってみたいかという質問を集計した。高齢者76%、子供64%、若者64%、若年夫婦76%という結果になり、どの世代も半数の方が「思う」という答えが得られた。合計では70%の方が「思う」と回答してしてくれた。

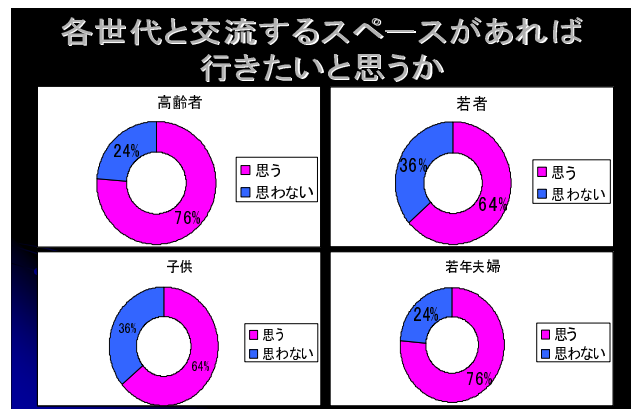


図-8 交流スペースがあれば行きたいと思うか

以上のような事がアンケート調査より分かった。アンケート調査を通じて、普段では話をする機会がない方々と交流することができ、とても勉強になり、目には見えない事も学ぶことができる。個々それぞれ考え方は違うが、どの世代も各世代に興味がある事を実感できた。

高齢者の方々には知識を学び、子供・若者の方々には活力・元気、娯楽要素を教えてもらう。そして、若年夫婦世代には、考え方や意見交換を望む。各世代が他の世代の足りない所を互いに補い、世代のバランスが保たれているのである。

#### 4. 問題点及び解決策

問題点：高齢者と若者の交流したい項目の相違。

原因：若者が高齢者と交流する機会がほとんどない。

方法論：若者が高齢者と交流する機会の設定が必要。

■若者が高齢者と交流することにより得られるもの

- ・コミュニケーション能力の向上。
- ・上司との意見の不一致、等に対応する力。
- ・忍耐力を身につける。“キレる”若者を増加させない。

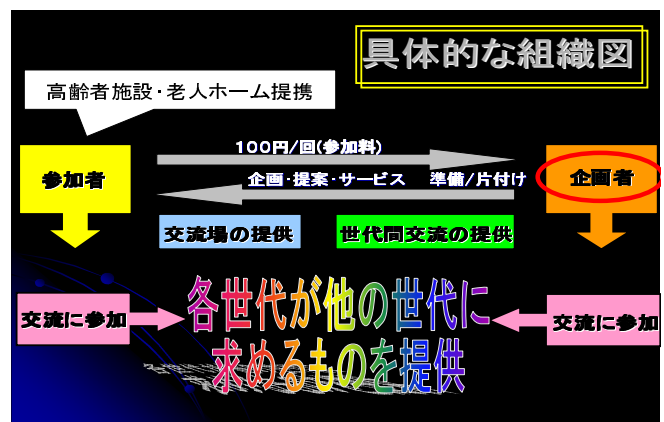


図-9 具体的な組織図

## —方法論：若者が高齢者と交流する機会の設定策—

### (1) 交流スキームの設置計画

- ・交流スキームのネーミング設定：各世代が受け入れられるもの 例：アンパンマンクラブ
- ・参加金額が100円/回程度で行えるシステムを設定する。(特別なイベント等は追加料金を設定する)
- ・交流項目ごとのコーナーを設定する。
- ・交流を繰り返す事により、交流項目を絞り込む。
- ・自治体の補助等は期待しない。

### (2) 情報の提供案

- ・最も効果が得られるのは、「テレビ」、「新聞」、「ラジオ」の広告であるが高額となる。
- ・企画者達がビラ配り・お店にお願いし店頭でビラの展示、配布のお願い。
- ・好奇心旺盛な子供達への声かけ、高齢者施設・老人ホーム等の施設と提携して、声かけを行う等の方法が考えられる。

### (3) 交流スペースの確保

交流施設の貸出が可能だと考えられるのは、既存の小学校・中学校の運動場や体育館を利用する方法。

メリット：貸出料金が安く、コストが抑えられる

#### ○屋内スペース(体育館)

例) 高知市立大津小学校

「体育館2時間利用の料金」

半面 630円

全面 1,260円

#### ○屋外スペース(運動場)

例) 高知市立大津中学校

「運動場2時間利用の料金」

半面 1,470円

両面 2,940円

簡単に行えない交流をする特別な日の設定

＝特別交流＝

例) 釣り(大会) 観光バスなどを借りて釣り場へ

例) 会食・飲み会 レストランや居酒屋等で交流

例) 季節限定の交流 花見・月見・海水浴…等

交流項目に応じた、交流スペースの確保・時間の設定等を決定する必要がある。

## 5. 企画者・実行者を工科大学の授業や部活動の一環として行う

企画者・実行者が不透明である為、ここで工科大学の授業や部活動の一環として行う事を提案する。

- ・工科大学が実施者と想定した場合、参加者の交流スペース料金と参加料が無料となる
- ・情報の提供では、ホームページ上も考えられる
- ・部活・クラブとして創部する。
- ・授業として行う事により、学生に対しても知識の向上や、社会性の向上等が考えられ、幾つものメリットが考えられる。

よって、授業の一環として行う方法を推奨する。

## 6. 結論

本研究は、アンケート調査を主体とし研究した。アンケート結果により世代間交流は、実際に、あまり行われていない事が分かった。しかし、全世代の人たちが世代間交流を強く求めていることも分かった。各世代が、それぞれ良い部分を持ち合わせており、提供できるものがあるのに、交流しないのは、とても残念なことである。

しかし、世代間交流は口にする事は簡単なことだが、実現することは大変、難しいことだと実感した。

交流を行う為には、各世代がそれぞれ持ち合わせているものを提供できる交流スキームが必要である。世代間交流を行うことにより、地域の人々の人間関係の活性、自らの能力のスキルアップ、人間的成長など幾つものメリットが存在すると考えられる。

2050年世界は益々、少子高齢化問題が深刻化していくと推測されている。

高知県・日本だけに関わらずこの研究課題は世界の課題となってくると考えられる。

参考文献：

1 統計局ホームページ

<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/tsuki/index.htm>

2 高知市公式ホームページ

<http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/110/hokenjotoukei-jouhou-toukei-sui.htm>